

令和2年

火災・救急活動の概要

【暫定版】

高槻市消防本部

1 火災

(1) 火災件数と出火率

◎火災は7件の増加

令和2年中に高槻市内で発生した火災は70件で、前年の63件と比べ7件の増加となった。

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は2.0で、全国平均（令和元年中）3.0と比べ1.0ポイント低い。

(2) 火災種別

◎建物火災が約69%

令和2年中の火災件数のうち建物火災が48件で、全火災の約69%を占めている。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

建物火災	48件 (68.6%)
林野火災	0件 (0.0%)
車両火災	10件 (14.3%)
その他の火災	12件 (17.1%)

(3) 焼損面積

◎焼損床面積は減少、焼損表面積は増加

建物火災は48件で前年の36件から12件増加し、焼損床面積は811平方メートルで、前年の1,457平方メートルに比べ減少となった。

焼損表面積は127平方メートルで、前年の25平方メートルに比べ増加している。

(4) 損害額

◎損害額は減少

令和2年中の損害額は105,458千円で、前年の129,927千円に比べ24,469千円の減少となった。

1件当たりの損害額は1,507千円で、前年の2,062千円より555千円の減少である。

※ 損害額の整数第3位を四捨五入

(5) 火災による死傷者

◎死者は2人、負傷者は減少

令和2年中の火災による死者は2人（前年3人）で、負傷者は10人（前年12人）であった。

また、負傷者10人のうち、重症者は0人（前年2人）、中等症者が3人（前年4人）、軽症者が7人（前年5人）、30日死者が0人（前年1人）である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

◎令和2年は「たばこ」が1位に

ア 令和2年中の全火災（70件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

たばこ	14件 (20.0%)
放火（疑い3件を含む）	9件 (12.9%)
こんろ	4件 (5.7%)
電気機器	4件 (5.7%)
配線器具	4件 (5.7%)
電灯・電話等の配線	3件 (4.3%)
マッチ・ライター	2件 (2.9%)

焼却炉	2件 (2.9%)
ストーブ	1件 (1.4%)
こたつ	1件 (1.4%)
電気装置	1件 (1.4%)
火遊び	1件 (1.4%)
たき火	1件 (1.4%)
灯火	1件 (1.4%)
衝突の火花	1件 (1.4%)
その他	11件 (15.7%)
不明・調査中	10件 (14.3%)

イ 建物火災 (48件) を原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

たばこ	10件 (20.8%)
こんろ	4件 (8.3%)
配線器具	4件 (8.3%)
放火	4件 (8.3%)
電気機器	3件 (6.3%)
電灯・電話等の配線	3件 (6.3%)
マッチ・ライター	2件 (4.2%)
焼却炉	1件 (2.1%)
ストーブ	1件 (2.1%)
こたつ	1件 (2.1%)
電気装置	1件 (2.1%)
灯火	1件 (2.1%)
その他	6件 (12.5%)
不明・調査中	7件 (14.6%)

(7) まとめ

令和2年中の火災は、70件で前年の63件に比べ7件増加している。従前に引き続き地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

火災種別でみると、建物火災が48件で前年より12件増加しているが、焼損床面積や損害額は前年より減少している。

火災による死者は2人で、前年より減少している。負傷者は10人で、前年より2人減少している。

出火原因は、「たばこ」が14件で1位、「放火(疑いを含む)」が9件で2位、「こんろ」と「電気機器」と「配線器具」が4件で3位、と続いている。「放火(疑いを含む)」は、前年の15件から6件減少したが、消防、警察、自治会、自主防災組織、事業所等が取り組んでいる「放火されにくい地域環境作り」を継続し、放火撲滅に向けた積極的な対策をより一層推進していかなければならない。

令和2年火災概要（対前年比）

区 分		単位	令和2年 (A)	令和元年 (B)	増減 (C) (A) - (B)	増減率 (%) (C) / (B) × 100	
出火件数			70	63	7	11.1%	
建物火災		件	48	36	12	33.3%	
林野火災			0	1	△ 1	△100.0%	
車両火災			10	6	4	66.7%	
その他の火災			12	20	△ 8	△40.0%	
焼損棟数				71	52	19	36.5%
全 焼		棟	6	11	△ 5	△45.5%	
半 焼			5	2	3	150.0%	
部分焼			16	5	11	220.0%	
ぼ や			44	34	10	29.4%	
焼 損 面 積	建	床面積	m ²	811	1,457	△ 646	△44.3%
	物	表面積	m ²	127	25	102	408.0%
	林 野		a	0	8	△ 8	△100.0%
死 者		人	2	3	△ 1	△33.3%	
負傷者(30日死者含む)		人	10	12	△ 2	△16.7%	
り災世帯			75	37	38	102.7%	
全 損		世帯	14	5	9	180.0%	
半 損			7	1	6	600.0%	
小 損			54	31	23	74.2%	
り災人員		人	148	88	60	68.2%	
損害額			105,458	129,927	△ 24,469	△18.8%	
建物(収容物含む)		千円	101,182	77,119	24,063	31.2%	
林野			0	0	0	0.0%	
車両			3,678	7,008	△ 3,330	△47.5%	
その他(爆発含む)			598	45,800	△ 45,202	△98.7%	
出火率			件	2.0	1.8	0.2	11.1%
年	令和2年			令和元年			
主な出火原因	1	たばこ	14件	1	放火 (疑いを含む)	15件	
	2	放火 (疑いを含む)	9件	2	たき火	6件	
	3	こんろ	4件	3	たばこ	5件	
	3	電気機器	4件	3	ストーブ	5件	
	3	配線器具	4件	5	電灯・電話等の配線	4件	

過去5年間の火災状況

区分別		年別	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
火災件数			76	81	62	63	70
内 訳	建 物		43	48	38	36	48
	林 野		0	0	0	1	0
	車 両		12	10	4	6	10
	その他		21	23	20	20	12
	爆発（再掲）		0	0	0	0	1
焼損棟数（棟）			51	61	55	52	71
内 訳	全 焼		4	9	8	11	6
	半 焼		2	0	3	2	5
	部分焼		5	11	12	5	16
	ぼ や		40	41	32	34	44
焼損面積	建 物	床面積（㎡）	337	977	687	1,457	811
		表面積（㎡）	266	52	177	25	127
	林 野（a）			0	0	0	8
り災世帯（世帯）			38	63	39	37	75
内 訳	全 損		4	15	7	5	14
	半 損		1	10	4	1	7
	小 損		33	38	28	31	54
り災人員（人）			101	126	78	88	148
損 害 額（千円）			26,169	103,985	91,007	129,927	105,458
内 訳	建 物（収容物含む）		19,723	74,944	90,630	77,119	101,182
	林 野		0	0	0	0	0
	車 両		5,812	25,125	22	7,008	3,678
	その他（爆発含む）		634	3,916	355	45,800	598
死 者（人）			0	1	1	3	2
負 傷 者（人）			17	24	18	12	10
30日死者（人）			0	0	1	1	0
覚 知 別 件 数			76	81	62	63	70
内 訳	火災報知専用電話（119）		42	50	40	29	37
	加 入 電 話		0	4	1	2	3
	警 察 電 話		5	4	6	7	6
	事 後 聞 知		28	20	13	22	21
	そ の 他		1	3	2	3	3

2 救 急

(1) 救急出動件数

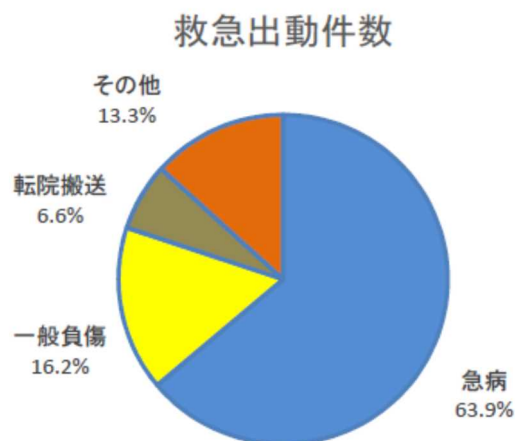
◎出動件数は減少

令和 2 年中の救急出動件数は 20,105 件で前年 22,650 件に比べ 2,545 件(11.2%)減少した。

また、1日平均にすると約55件、約26分に1回の割合で出動したことになる。

出動件数を事故種別毎にみると、第 1 位が急病で 12,854 件(63.9%)、第 2 位が一般負傷 3,263 件(16.2%)、第 3 位が転院搬送 1,334 件(6.6%) の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出動件数は 1,164 件であった。



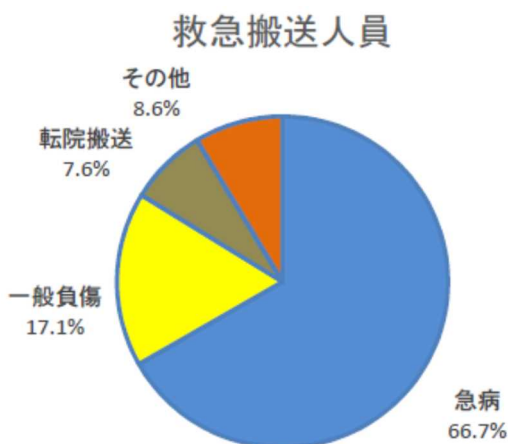
(2) 救急搬送人員

◎搬送人員は減少

令和 2 年中の搬送人員は 17,550 人で、前年 20,016 人に比べ 2,466 人(12.3%)減少した。

また、1日平均約 48 人、市民の約 20 人に 1 人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

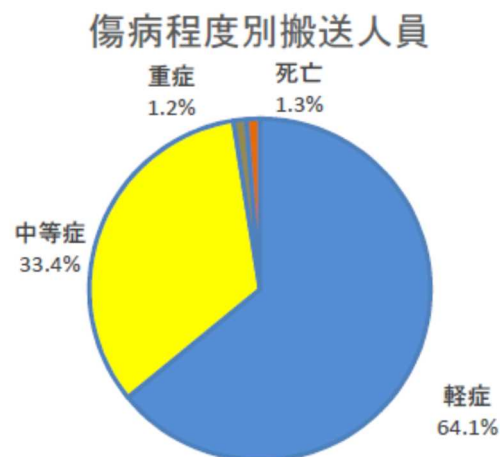
搬送人員を事故種別毎にみると、第 1 位が急病で 11,708 人(66.7%)、第 2 位が一般負傷 2,997 人(17.1%)、第 3 位が転院搬送 1,329 人(7.6%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎軽症傷病者は 11,251 人

令和 2 年中の搬送人員 17,550 人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が 11,251 人(64.1%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が死亡、重症又は軽症以外のもの)が 5,860 人(33.4%)、重症(傷病の程度が 3 週間以上の入院加療を要するもの)が 218 人(1.2%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が 221 人(1.3%) の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

◎応急手当普及啓発と救急車の正しい使い方を PR

令和 2 年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると出動件数は減少、搬送人員も減少となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症傷病者が多く、全搬送人員の 64.1%を占めており、全国平均 48.0%(令和元年中)に比べ高い割合を示している。

今後、増え続けると予想される救急出動に対して、緊急度・重症度が高い傷病者に最適な医療を投入するため、応急手当の普及啓発を推進するとともに、各講習会やイベント等を通じ、救急車の適正利用について市民等に更なる働きかけを行う必要がある。

救急概要

区分 事故種別		出動件数(件)			搬送人員(人)		
		2 年	元 年	増 減	2 年	元 年	増 減
合 計		20,105	22,650	△ 2,545	17,550	20,016	△ 2,466
火 災		48	43	5	10	12	△ 2
自然災害		0	1	△ 1	0	1	△ 1
水 難		6	13	△ 7	1	5	△ 4
交 通		1,174	1,479	△ 305	1,104	1,395	△ 291
労働災害		167	201	△ 34	156	182	△ 26
運動競技		78	138	△ 60	77	133	△ 56
一般負傷		3,263	3,385	△ 122	2,997	3,152	△ 155
加 害		65	74	△ 9	54	64	△ 10
自損行為		170	170	0	114	103	11
急 病		12,854	14,451	△ 1,597	11,708	13,289	△ 1,581
そ の 他	転院搬送	1,334	1,687	△ 353	1,329	1,680	△ 351
	医師搬送	685	748	△ 63	0	0	0
	資器材搬送	36	0	36	0	0	0
	その他	225	260	△ 35	0	0	0

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	14	25	10	0	1	155	0	159	364
活動件数(件)	14	7	10	0	1	140	0	54	226
救助人員(人)	4	7	7	0	1	144	0	20	183

4 その他

(1) 警戒・支援出動等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出動	28件	火災危険のあるもの(危険物・ガス漏洩等)
誤虚報出動	41件	火災出動したが結果誤虚報であったもの
支援出動	731件	救急等の支援活動
その他出動	405件	上記以外(怪煙調査・エンジンオイル漏洩等)
合計	1,205件	

(2) 応援出動

応援先	件数	応援出動の内容
島本町	49件	救急出動49件(高速道路含む)
茨木市	11件	救急出動7件・火災出動1件・その他出動3件(高速道路含む)
摂津市	5件	火災出動2件・救急出動3件
枚方市	1件	救急出動1件
京都市	1件	その他出動1件
大山崎町	4件	救急出動4件(高速道路含む)
合計	71件	

(3) その他の災害出動

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出動	22件	令和2年7月豪雨に伴う警戒等

※ 全ての表中の△印は減少もしくは負数を表す